

## 第4章 業務概要



## 1 事業推進課

### 1.1 庶務・企画

- (1) 所の庶務・維持管理
- (2) 有識者会議（アドバイザリーボード）
- (3) 研究所職員向け研修・研究発表の統括
  - ・安全衛生教育研修（2016年4月8日）
  - ・公用車（電気自動車）研修（2016年4月8日）
  - ・メンタルヘルス講習会（2016年6月21日）
  - ・高圧ガス保安講習会（2017年1月13日）
  - ・分析技術研修（2017年1月31日）
  - ・所内研修会—平成28年度調査研究等成果報告会—（2017年3月22日）
  - ・環境セミナー（2017年3月24日）
- (4) 研究所年報刊行、ホームページ管理

### 1.2 環境教育・学習業務

- (1) 環境学習教室等のイベントの開催

#### ア オープンラボ2016

環境月間（6月）の事業として、環境問題に関する体験学習と施設公開を実施した。

#### イ NPO法人等多様な主体と連携した環境教育の実施

市民団体や企業などの多様な主体と連携して環境教育を行うことを目的に、2013年度より委託事業を実施している。2016年度はNPO法人アクト川崎及びNPO法人とどろき水辺が受託し、次の講座を実施した。

- ・研究所の研究成果を活用した環境科学教室
  - (ア) 大人を対象とした環境科学セミナー（全1回）
  - (イ) 子供と保護者を対象としたこども環境科学教室（2回）
  - (ウ) 夏休み環境科学教室（全4回）
- ・研究所の立地条件を活かした多摩川河口干潟の生きもの観察会
  - (ア) 小学生以上を対象とした干潟の生きもの観察会（全5回）
  - (イ) 多摩川河口の野鳥観察会（1回）



環境科学セミナー



こども環境科学教室1



こども環境科学教室2



夏休み環境科学教室1



夏休み環境科学教室2



干潟の生きもの観察会1



干潟の生きもの観察会2



野鳥観察会

### ウ 環境セミナー

市民及び職員を対象に水、大気、都市環境等の分野を学ぶ講座の実施。2016年度は「水環境」をテーマに、第1部「川崎の水環境をめぐる変遷について」（講師：NPO 法人環境研究会かわさき 副理事長 林久雄氏）及び第2部「地球温暖化に伴う流域と水環境の危機」（講師：慶應義塾大学名誉教授・理学博士 岸由二氏）の講義を実施した。



環境セミナー

### エ 関係機関との協働事業の実施

夏休み多摩川教室、キングスカイフロント夏の科学イベントへの出展



夏休み多摩川教室1



夏休み多摩川教室2



夏の科学イベント

### オ その他

環境総合研究所環境学習学生サポーター制度の開始。（登録3名）

### (2) 出前教室

小中学校等からの依頼による環境科学教室、体験学習の実施



宮内中学校総合学習



旭町小学校総合学習



横浜女学院環境学習

2016年度環境教育・学習事業概要一覧

No.	事業名	実施日	実施概要	対象及び当日参加人数
1	第1回干潟の生きもの観察会	6月19日	多摩川河口干潟に生息している生物や干潟の浄化機能の講義及び、干潟の生きもの調査と二枚貝による水の浄化実験を実施した。(定員:50名) 講師:榎本正邦(環境研究家)・江良弘光(サイエンスグラフィックイラストレーター)	小学生以上 45名
2	宮内中学校総合学習授業	6月28日	市立宮内中学校の「環境問題について考える」というテーマでの総合学習授業の中で、環境総合研究所の見学と水質環境に関する実験を実施した。	宮内中学校1～3年生 28名
3	オープンラボ2016	6月29日	「燃料電池で実験」をテーマに、水の電気分解で水素を作り、作った水素で燃料電池カーを走らせる実験や環境総合研究所の業務内容を広く理解してもらうための施設見学を実施した。(定員:50名)	小学4～6年生 39名
4	第1回こども環境科学教室	7月1日	「川にすむ生きものを調べよう」というテーマで、多摩川等々力河川敷において魚とり体験と水辺の生きもの観察を実施した。(定員:50名) 講師:榎本正邦(環境研究家)・江良弘光(サイエンスグラフィックイラストレーター)	小・中学生とその保護者 45名
5	第2回干潟の生きもの観察会	7月3日	多摩川河口干潟に生息している生物の講義及び、干潟の生きもの特にカニのダンスやカニのすみわけ調査と二枚貝による水の浄化実験を実施した。(定員:50名) 講師:榎本正邦(環境研究家)・江良弘光(サイエンスグラフィックイラストレーター)	小学生以上 52名
6	夏休み多摩川教室	7月26日 27日	多摩川の水質や自然環境等へ持続的に興味を持ってもらうことを目的に多摩川流域協議会が開催する夏休み多摩川教室において、関係部署とともに「川の中の生きものコーナー」を実施した。川の中の魚や底生生物などを採取し、顕微鏡で観察を行った。	一般560名 (全体 1480名)
7	第3回干潟の生きもの観察会	8月2日	「干潟の生きもの観察とスケッチ」をテーマに、多摩川河口干潟の生きものを採取し、生き物の特徴をよりよく観察するためスケッチの実施を予定していたが、荒天のため中止した。(定員:50名)	小学生以上 —
8	水環境体験ツアー	8月3日	水質環境課、上下水道局及び港湾局の共催事業として、水環境について親しみ、学んでもらうために開催された「水環境体験ツアー」において、講義と生物観察会を実施した。	大人 38名
9	星空ウォッチング inキングスカイフロント・夏	8月4日	星空観察を通して、大気環境について考え、身近な環境保全活動へのきっかけとして、「かわさき宙と緑の科学館」と共同で開催した。夏の星空に関する解説を行った。(定員:60名) 講師:弘田澄人氏(かわさき宙と緑の科学館担当係長)	小学生以上 64名
10	第1回夏休み環境科学教室	8月8日	「見えない空気を調べてみよう」をテーマに、空気の成分や性質に関する実験や大気汚染を学ぶために物の燃焼に関する実験を行った。(定員:各50名)	小学4年～中学生とその保護者 37名
11	第2回夏休み環境科学教室	8月8日	講師:長村吉洋氏(川崎市地球温暖化防止活動推進センター)	小学4年～中学生とその保護者 38名
12	キングスカイフロント 夏の科学イベント	8月9日	臨海部国際戦略本部主催で、ライフサイエンス分野の企業・研究機関の集積を進めている「殿町国際戦略拠点キングスカイフロント」にて、立地研究機関等によるイベントを実施した。「研究所探検」及び「作ろう!瞬間冷え冷えバック」等のブースを担当した。	一般 900名
13	第3回夏休み環境科学教室	8月12日	「水の不思議を調べてみよう!」をテーマに水の様々な性質や、水質環境に関する実験を行った。(定員:各50名) 講師:長村吉洋氏(川崎市地球温暖化防止活動推進センター)	小学4年～中学生とその保護者 39名
14	第4回夏休み環境科学教室	8月12日		小学4年～中学生とその保護者 28名
15	第4回干潟の生きもの観察会	8月17日	「干潟の生きもの観察とスケッチ」をテーマに、多摩川河口干潟の生きものを採取し、生き物の特徴をよりよく観察するためスケッチを実施した。(定員:50名) 講師:榎本正邦(環境研究家)・江良弘光(サイエンスグラフィックイラストレーター)	小学生以上 38名
16	小倉小学校環境学習	8月29日	市立小倉小学校の環境学習授業として、多摩川河口干潟の生きもの観察(講師:多摩川クラブ)及び研究所の環境学習用冊子「水辺の生きもの」「大切な大気のはなし」による環境学習を実施した。	小倉小学校5年生 110名
17	第5回干潟の生きもの観察会	9月17日	多摩川河口干潟に生息している生物や干潟の浄化機能の講義及び、干潟の生きもの調査と二枚貝による水の浄化実験を実施した。(定員:50名) 講師:榎本正邦(環境研究家)・江良弘光(サイエンスグラフィックイラストレーター)	小学生以上 45名
18	藤崎小学校環境学習	9月20日	市立藤崎小学校の環境学習授業として、多摩川河口干潟の生きもの観察(講師:多摩川クラブ)及び研究所の環境学習用冊子「水辺の生きもの」「大切な大気のはなし」による環境学習を予定していたが、荒天のため中止した。	藤崎小学校5年生 —
19	旭町小学校総合学習	10月12日	市立旭町小学校からの依頼により、「川崎の環境について」をテーマに、班にわかれ、環境総合研究所について説明と見学、及び大気汚染の状況を調べるマツの葉の気孔観察実験を実施した。	旭町小学校5年生 及び教員 74名
20	第2回こども環境科学教室	10月29日	王禅寺エコ暮らし環境館・明治大学黒川農場を見学。環境問題を総合的に学習するバスツアーを実施した。(定員:40名)	小・中学生とその保護者 33名
21	横浜女学院環境学習	11月15日	横浜女学院高等学校の環境学習授業として、環境問題に関する授業を行うにあたり、環境総合研究所の取組を理解するための施設見学と燃料電池に関する実験を実施した。	横浜女学院高等学校1 年生及び教員 63名
22	環境科学セミナー	11月30日	「生活環境における化学物質の安全性の考え方」をテーマに国立環境研究所環境リスク・健康研究センター病態分子解析研究室長の小池栄子氏を招いた講義、及び研究所の化学物質対策に関する取組を紹介するセミナーを実施した。(定員:80名)	大人 42名
23	多摩川河口の野鳥観察会	12月4日	多摩川河口に生息する野鳥及び双眼鏡の使用など野鳥観察の予備知識についての講義及び観察を実施した。(定員:50名)	小学生以上 51名

24	星空ウォッチング inキングスカイフロント・冬	2017年 1月20日	星空観察を通して、大気環境について考え、身近な環境保全活動へのきっかけとして、「かわさき宙と緑の科学館」と共同で開催を予定していたが、荒天のため中止した。(定員:60名)	小学生以上 —
25	2017環境セミナー	3月	「水環境」をテーマに、第1部「川崎の水環境をめぐる変遷について」(講師:NPO法人環境研究会かわさき 副理事長 林久雄氏)及び第2部「地球温暖化に伴う流域と水環境の危機」(講師:慶應義塾大学名誉教授・理学博士 岸由二氏)の講義を実施した。(定員:80名)	市民及び職員 51名

### (3) 教材の活用

- ア 環境学習用教材 (すごろく型エコライフゲーム等) の貸出
- イ 環境学習用冊子等の配布
  - ・ 環境学習用冊子・教材「水辺の生きもの」冊子・下敷きの配布
  - ・ 環境学習用冊子「大切な大気のはなし」の配布



大切な大気のはなし

### 1.3 国際展開・環境技術情報業務

- (1) 国際連合環境計画 (UN Environment) 等との連携事業
  - 「第13回アジア・太平洋エコビジネスフォーラム」の開催 (2017年2月16日)
- (2) 環境技術情報の収集・発信
  - ア 環境技術情報ポータルサイトによる環境技術情報の収集・発信
  - イ アーカイブスペースの管理・運営
- (3) 中国瀋陽市との連携・協力
  - 第19期瀋陽市環境技術研修生の受入 (2016年10月23日～11月20日、研修生2名)
- (4) 海外からの環境技術に関する視察・研修受入
  - 2016年度視察受入数: 中国、インドネシア共和国、フィリピン、ミャンマー、ベトナム、メキシコ、スーダン、エジプト、モンゴル、チリなど22件 (202人)

### 1.4 国際連携・研究推進業務

- (1) 国際貢献の推進に向けた研究
  - ア マレーシア国ペナン州「Waste to Energy 技術」による低炭素都市形成支援事業
  - イ インドネシア共和国バンドン市との国際連携の構築に基づくグリーンイノベーション及び技術移転を通じた国際貢献の推進事業
  - ウ 本市の特性を活用した都市間連携によるアジア諸国の環境問題解決に向けた技術・社会システムの構築
- (2) 低炭素都市に係る総合的な研究
  - ア 市内の国立研究開発法人が保有する優れた技術を基にした技術開発共同研究～途上国の温暖化対策・砂漠化防止に貢献～
  - イ 市内企業が保有する優れた技術を基にした技術開発共同研究～本市と覚書にて連携する途上国への導入予定機器運用上の課題を解決～
- (3) 環境施策に係る総合的な研究
  - ア 環境配慮型新ライフスタイル提案のための新たなアプローチ手法の開発と適用に関する研究

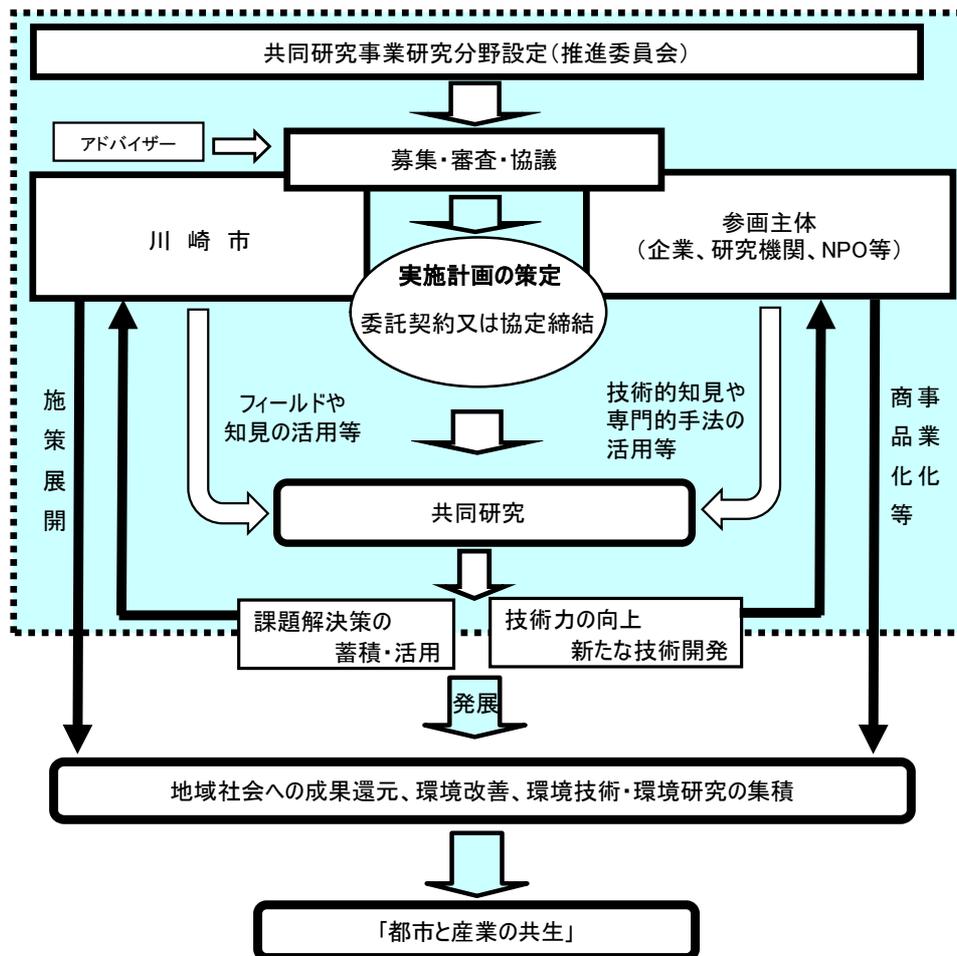
## 2 都市環境課

### 2.1 都市環境研究業務

- (1) 地球温暖化対策に関する調査研究
  - ア 気候変動に関する調査研究
  - イ 温室効果ガス排出量に係る調査研究
- (2) ヒートアイランド現象に関する調査研究
  - ア 気温分布に関する調査
    - 一般環境大気測定局9地点のデータ活用に加えて生田緑地内にて気温の測定を実施
  - イ 熱中症と気温との関係に関する調査研究

### 2.2 産学公民連携業務

- (1) 環境技術産学公民連携共同研究事業
  - 2016年度の共同研究事業は、6件 (公募型共同研究事業4件、連携型共同研究事業2件) を実施



**環境技術産学公民連携共同研究事業の流れ**

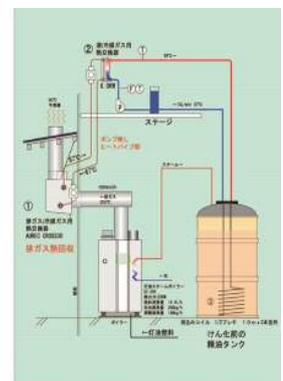
ア 公募型共同研究事業

毎年度公募を行い、選定した研究テーマについて、委託事業として実施する共同研究事業。

(ア) 小型・可搬型・分散型かつ安価な少量・低温度域排熱利用の推進に向けての実用レベル研究  
(共同研究者：一般社団法人 持続可能で安心安全な社会をめざす新エネルギー活用推進協議会)

一般社団法人 持続可能で安心安全な社会をめざす新エネルギー活用推進協議会（宮城県仙台市）と本市は、工場等でエネルギーとしては未利用域である、低温度領域（概ね200℃未満）の熱利用の促進に向け、2014年度から2016年度まで市内事業者等の協力を得て熱利用技術の検証等を行った。

2014年度は、市内中小企業における排熱の種類や排熱利用に関するニーズ調査及び、浮島処理センターをフィールドとしたバイナリー発電機の実証を行い温度差50℃の排水における約1kWhの発電データを得た。2015年度は、市内企業の協力を得て、排ガスを対象とした熱交換やヒートパイプを組み合わせた熱回収技術の実証を行った。2016年度は、発電だけではなく多様な熱利用の可能性を見出したため、当初の発電システムの開発から、より汎用性を追求し、実用性に重点を置いた排熱回収・熱輸送技術の実証等を行った。（右図）



今後、限られたスペースなど多種多様な条件の事業所に適応する技術開発により、排熱の有効利用が進むことで、省エネ・低炭素社会の実現につながる事が期待される。

(イ) 環境情報・写真データを用いたコミュニティ活性化支援に関する共同研究

「環境」×「川崎の過去・現在」を対話する

(共同研究者：学校法人国際大学国際大学グローバル・コミュニケーション・センター (GLOCOM))



学校法人国際大学国際大学グローバル・コミュニケーション・センター（東京都港区）と本市は、ライフスタイルの多様化等が進む現在において低下している地域コミュニティの活性化のため、2014年度から2016年度まで「環境」を切り口とし、本市の過去と現在との比較を素材としながら地域社会におけるコミュニケーションを活性化する効果的な方法やプロセスの確立を目指し研究を行った。

2014年度は、市の保存している古い映像や写真を集め分類し、3つのテーマ（「公害」・「山間部・平地」・「臨海部」）で映像データを編集。その活用方についてワークショップやイベント出展により市民から直接声を集め検討を行った。2015年度は、身近な環境問題のひとつである“路上ゴミ”を題材とし、市内の複数箇所の路上ゴミを調査・オープンデータ化し可視化するとともに、各地の特徴や地域課題を考察するワークショップを開催し、環境コミュニケーションの活性化手法について研究を進めた。2016年度は地域の課題解決に向けた市民の自発的行動の誘発を目的に、ゴミ拾い活動の地域団体や地元商店街の協力のもと、ワークショップを開催。川崎駅前の対象エリアでゴミ拾いや実態調査を行い、自分たちが作成したデータ、本市のデータを用いながら、路上ゴミ対策、美化方策を検討し、実際に実験・検証を行う中で、コミュニケーションの促進による地域の課題解決へのプロセスをまとめた。

この研究により身近な環境課題に対する地域コミュニティの活動の凡例やその効果等が示されることで、こうした活動が普及展開することが期待される。

(ウ) 地域活性化と環境共生を両立する低炭素コミュニティの実現手法に関する研究

(共同研究者：学校法人五島育英会東京都市大学)

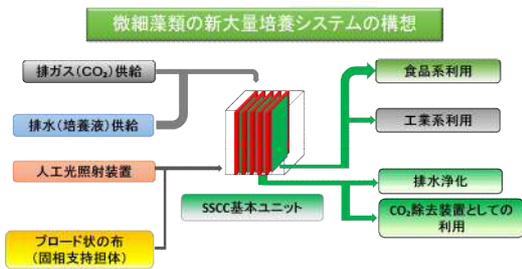
学校法人五島育英会東京都市大学（東京都世田谷区）と本市は、スマートシティ事業における既成市街地への普及展開に向け、既存商店街の活性化を軸に2014年度から2016年度まで市内の既存商店街とその周辺地域を対象に汎用性のある低炭素コミュニティの実現手法について研究を行った。

2014年度は、市内の地域特性のデータベース作成や商店街や市民団体を対象に聞き取り等を行い、低炭素商店街の実現への課題等の抽出を行った。また、対象地域として多摩区の登戸東通り商店会と区役所通り登栄会商店街振興組合とその周辺地域を決定し、更には多摩区まちづくり協議会多摩エコスタイルプロジェクトも加わり、具体的なエコ活動についての検討を行った。2015年度は、地域関係者と定期的な会合を開き、商店街の低炭素活動（イベント開催、エコポイントカード）の実施を中心とした効果検証や対象地域の建物データベースの作成を行った。2016年度はこれまでに行ったアンケート調査をとりまとめ、コミュニティ主導型の低炭素まちづくりの実現プロセスとロードマップを整理した。また、地域活動の継続やその普及展開のために必要な組織化や役割分担、初動期から展開期の各段階に応じた各種支援策のあり方をまとめた。

この研究により既成市街地における地域コミュニティが主体となった低炭素なまちづくりが展開・促進されることで、民生部門の低炭素化の推進が期待される。



(エ) 微細藻類の新大量培養システムの研究開発  
(共同研究者：学校法人東京薬科大学)



学校法人東京薬科大学（東京都八王子市）と本市は、微細藻類の光合成機能に着目し、2016年度から東京薬科大学らが開発した“微細藻類の効率的な培養によるCO<sub>2</sub>固定化システム（固相表面連続培養システム）”の実用化に向けた研究を行っている。

初年度は本システムの工場等への実導入を想定した設置環境を考慮し、市内の事業所から排出される実際の排水を培養液とすることで、微細藻類の一種である“クロレラ”培養の適否、CO<sub>2</sub>の固定化、更には水質浄化効果（リンの除去）の検証を行った。

市内には、数多くの企業が立地しており、そうした各企業内におけるCO<sub>2</sub>排出量の抑制やリン除去等の排水浄化を補助する装置として期待される。

イ 連携型共同研究事業

多様な連携のスタイルに対応するため、2014年度に「環境技術産学公民連携共同研究事業に係る申請及び実施に関する要領」を改正し、新たに位置づけたフィールド提供を中心とした共同研究事業。

(ア) 既設太陽光パネルの洗浄方法と発電効率に関する実証  
(共同研究者：フジクス株式会社)

フジクス株式会社（川崎市川崎区）と本市は、2015年1月に共同研究実施に係る覚書を締結し、普及しつつある太陽光発電システムの経年劣化や発電効率の低下に対し、その性能回復について、洗浄の効果及び洗浄方法に関する研究を行った。



2014年度は、2015年1月に市立西丸子小学校をフィールドとした試験洗浄を実施し、その効果検証として1年間のデータ収集を行った。2015年度は2016年2月に市内メガソーラーにおいて試験洗浄を行い、非洗浄部分との比較により、その効果及び効果保持の状況について約1年のデータ収集を行った。

最終報告により、パネルの洗浄によるわずかな発電効率の回復（期間平均約1.5%）及び効果持続期間6か月程度という報告がなされたが、併せて、実用化までには作業の効率化の課題があることも示された。今後も、本研究成果を活かし、実用化に向けた検討や技術開発を進めることを期待する。

(イ) ブラウンフィールドにおけるファイトレメディエーション導入の共同研究  
(共同研究者：学校法人五島育英会東京都市大学 総合研究所 応用生態システム研究センター)

学校法人五島育英会東京都市大学 総合研究所 応用生態システム研究センター（横浜市都筑区）と本市は、2016年2月に共同研究実施に係る覚書を締結し、植物を使った汚染土壌の浄化について研究を行っている。

この研究では、植物の育成環境に厳しいといわれる、地下塩水、潮風の影響を受けやすい臨海部地域を実験フィールドとし、「鉛」による汚染を土地の表層部だけでなく根の深い植物を用いて深さ方向にも着目した実証実験を行う予定である。



2016年度は、臨海部地域における実証フィールドの検討を行った。

出典：王効学・李法雲・岡崎正規・杉崎三男(2004)：ファイトレメディエーションによる汚染土壌修復、埼玉県環境科学国際センター報第3号、pp.114-123

(2) 共同研究事業に係るセミナーの開催（2回）

ア キックオフセミナー（2016年8月1日）

2016年度に選定した公募型共同研究事業4件に係るキックオフセミナーを開催。出席者39名

イ 成果報告会（2017年3月16日）

2016年度に実施した共同研究事業の成果を報告するためのセミナーを開催。出席者42名

(3) 川崎国際環境技術展への出展

2017年2月16・17日に開催された川崎国際環境技術展2017へ出展し、産学公民連携事業について、これまでに実施した共同研究の事例紹介及び2016年度に実施した共同研究事業について情報発信を行った。

### 3 環境リスク調査課

#### 3.1 環境化学物質研究業務

(1) 環境中の化学物質に関する調査研究

ア 川崎市化学物質環境実態調査

イ 市内化学物質環境実態調査に向けた分析法検討

(2) 水質汚濁に関する調査

ア 工場・事業場排出水中のVOC調査

イ 地下水及び土壌汚染に関する調査

・汚染井戸継続調査（VOC）

・土壌汚染地域周辺の地下水質調査（VOC）

ウ 水質事故・苦情に伴う調査（農薬、油類等）

#### 3.2 環境リスク評価研究業務

(1) 化学物質による健康影響に係る環境リスク評価に関する調査研究

ア 化学物質環境実態調査

イ 大気拡散モデルを用いた曝露評価に関する調査研究

ウ 環境リスク評価手法の検討

(2) 環境及び発生源の有害大気汚染物質等に関する調査研究

ア 揮発性有機化合物及び多環芳香族炭化水素類のモニタリング調査

イ 揮発性有機化合物及び多環芳香族炭化水素類の臨海部平面分布調査

ウ オゾン層破壊物質及びフロン類代替物質のモニタリング調査

#### 3.3 生物学的調査研究業務

(1) 水質汚濁及び生物多様性に関する調査研究

ア 公共用水域における水質及び水生生物生息状況調査

イ 希少水生生物分布調査

ウ 東扇島人工海浜の生物調査

エ 多摩川河口干潟における生物及び底質調査

オ 水質事故・苦情に伴う調査（生物）

(2) 生物応答を利用した生態影響評価に関する調査研究

ア 生物応答を利用した評価手法の検討

#### 3.4 他機関との共同調査・研究

(1) 国立研究開発法人国立環境研究所と地方研究所等の共同研究（Ⅱ型）

「高リスクが懸念される微量化学物質の実態解明に関する研究」

(2) 神奈川県・横浜市との共同研究

「POPs等難揮発性化学物質の大気環境中における動態」

(3) 環境省受託化学物質環境実態調査（分析法開発及び環境調査）

### 4 地域環境・公害監視課

#### 4.1 大気調査研究業務

(1) PM<sub>2.5</sub>の成分分析に関する調査研究

ア 一般環境及び道路沿道における微小粒子状物質（PM<sub>2.5</sub>）の濃度実態調査

イ 微小粒子状物質（PM<sub>2.5</sub>）の成分調査及び発生源寄与率調査

- (2) アスベストに関する環境調査
  - ア アスベストの一般環境調査
  - イ 建屋解体等に伴うアスベスト調査
- (3) 酸性雨に関する調査
- (4) 降下ばいじんに関する調査
- (5) グリーンウォール（中央分離帯遮音壁）の改修工事の前後における窒素酸化物濃度調査

#### 4.2 水質汚濁防止対策業務

- (1) 工場事業所排出水の水質及び工程調査
  - ア 工場・事業場排出水の水質調査
    - 工場・事業場の排出水に含まれる規制項目（VOCを除く）の水質検査
  - イ 工場・事業場における排水処理施設の維持管理に関する調査
  - ウ 水質テレメーター接続工場・事業場における自動計測器の精度管理に関する調査
- (2) 土壌汚染による周辺環境に関する調査研究
  - ア 土壌汚染に係る地下水質（VOCを除く）調査
- (3) 汚染井戸継続調査
  - ア 地下水汚染継続調査
    - 汚染井戸に関する水質（VOCを除く）の継続調査（特定有害物質等製造等事業所の地下水質調査、汚染井戸継続調査）
  - イ その他の地下水質（VOCを除く）調査

#### 4.3 苦情・事故等に伴う調査業務

- (1) 大気・水質に係る苦情・事故等に伴う原因物質究明調査

#### 4.4 環境大気常時監視業務

- (1) 一般大気環境常時監視測定
  - 一般環境大気測定局9局での環境大気常時監視の実施
- (2) 道路沿道大気環境常時監視測定
  - 自動車排出ガス測定局9局での環境大気常時監視の実施
- (3) 常時監視機器、測定局の維持管理
  - ア 測定局舎及び測定機器の維持・整備
  - イ 測定結果等の情報提供内容の充実
- (4) 原子炉施設周辺及び市内の環境放射能調査
  - ア 原子炉施設周辺の施設排水及び上水の放射能濃度調査
  - イ 原子炉施設周辺の堆積物及び土壌の放射能濃度調査
  - ウ 原子炉施設周辺の大気浮遊じん、定時降水及び月間降下物の放射能濃度調査
  - エ 原子炉施設周辺の空間ガンマ線量率調査
  - オ 原子炉施設周辺の放射線積算線量調査
  - カ 市内における空間放射線量調査
  - キ 市内における土壌の放射性物質濃度調査

#### 4.5 他機関との共同調査・研究

- (1) 関東地方大気環境対策推進連絡会 浮遊粒子状物質調査会議
  - 関東地域における微小粒子状物質等の実態把握
- (2) 神奈川県公害防止推進協議会 PM2.5 等対策検討部会
  - 県内における微小粒子状物質等の濃度及び成分組成調査
- (3) 川崎市・瀋陽市の都市間連携協力事業における PM2.5 共同研究

# 大気常時測定監視網



一般環境大気測定局 2017年3月末現在

地区	測定局名 (設置場所)
大 師	大師 (川崎区役所大師分室)
田 島	田島 (田島支援学校)
川 崎	川崎 (市役所第4庁舎)
幸	幸 (幸スポーツセンター)
中 原	中原 (中原保健福祉センター)
高 津	高津 (生活文化会館)
宮 前	宮前 (宮前平小学校)
多 摩	多摩 (登戸小学校)
麻 生	麻生 (弘法松公園)

自動車排出ガス測定局 2017年3月末現在

地区	測定局名 (設置場所)
田 島	池上 (池上新田公園前)
川 崎	日進町 (都市機構川崎日進市街地住宅敷地内)
川 崎	市役所前 (市役所前)
幸	遠藤町 (御幸小学校)
中 原	中原平和公園 (中原平和公園)
高 津	二子 (高津区役所道路公園センター)
宮 前	宮前平駅前 (上下水道局管理地)
多 摩	本村橋 (本村橋)
麻 生	柿生 (麻生消防署柿生出張所)